

共に 「学び、思いやり、鍛え」 歩む

八代中学校「校長室だより」 No.1

校 訓

自 主 誠 実 工 夫

令和6年4月15日(月)

令和6年度(76年の歴史を持つ八代中学校の最終年度)がスタートしました。この1年を充実した皆さんの心に残る1年とするために、学校の教育目標を『共に「学び、思いやり、鍛え」歩む』としました。①互いに思いやり、認め合い、支え合う、温かい、誰もが居心地の良い学校づくり、②夢や目標の実現に向け挑戦する気力や態度の育成、③仲間と協働して問題解決能力や創造する力の育成、の三つを目指し、八中生が一丸となって元気に燃え、『共に歩む』1年にしたいと考えています。

以下に、4月8日に行われました入学式の校長式辞の一部を掲載します。

(前半略)

92名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。先ほど担任の先生から一人一人の名前を呼ばれたとき、背筋をピンと伸ばし、すばらしい返事をしてくれた新入生の皆さんの様子から、「八代中の生徒としてがんばろう」という意気込みを感じ、心強く思いました。今日から伝統ある八代中学校の一員です。先生方も、先輩の2年生、3年生も皆さんの入学を心より歓迎します。そこで、本校の生徒としてスタートを切る皆さんにぜひ知っておいてほしい二つのことをお話しします。

一つ目は本校の歴史です。76年前の昭和23年(1948年)、八幡浜市立八代中学校が創立、開校されました。校舎は当時の神山小学校南校舎の一部と県指導農場の4教室を借用して始めました。翌年の昭和24年(1949年)、現在地に新築校舎が建設され移転しました。そして、幾度かの校区変更や学校の統合等を経て、現在の八代中学校になりました。近年では、平成29年、皆さんが6歳の時でしょうか、双岩中学校が統合しました。そして、今から3年前、令和3年、真穴中学校が統合しました。地域の人々の様々な思いを受け継いでくれたからこそ、私たちはこの学び舎で学ぶことができます。しかし、1年後の令和7年3月31日をもって、この伝統ある八代中学校は閉校します。皆さんは、77年の八代中学校の最後の新生となりました。そんな、節目の年に入学したということは、皆さんの一生の中で、忘れることのできない出来事になることでしょう。よき伝統を引き継いで、この1年を『共に「学び、思いやり、鍛え」歩む』1年にしてほしいと思います。

二つ目は、本校の校訓です。本校の校訓と目指す生徒像は、「自主」・・・自分で判断し、正しいことを進んで行う自主的な生徒。「誠実」・・・素直で、全てのことに真心を尽くす誠実な生徒。「工夫」・・・何事も深く考え、創造力豊かに工夫する生徒。です。この校訓の下、将来、社会生活に対応し、貢献できる人となるよう、様々な学校行事や学習を通して、将来の夢や目標の実現に向けて挑戦する気力や態度を身に付けてください。

さて、2月にアメリカ映画界の最高榮譽であるアカデミー賞で視覚効果賞を受賞した日本映画は何だったのでしょうか? 「ゴジラ-1.0(マイナス ワン)」です。CG技術などで表現の幅を変えた作品に贈られる視覚効果賞を、アジア作品が受賞したのは初めての快挙でした。この「ゴジラ-1.0」の監督を務めたのが山崎貴(やまざき たかし)監督です。山崎監督が映画制作の道に入ったきっかけは、小学生の時にあるそうです。小学生の山崎少年は、「どうしても映画館でやっているゴジラが見たい」と父親に訴え、「ゴジラを見せてくれたら、後は映画館に行きたいなんて絶対に言わない。」と約束し、父親は、約束通り一回だけゴジラを映画館で見せてくれたそうです。これがきっかけで、映画の道に進みたいと思ったそうです。きっと、きっかけはいろいろなところにあるのだと思います。皆さんも、いろいろなものに出会って、自分の興味のあるもの、好きなもの、楽しいもの、自分に合っているものをぜひ見付けてください。きっと道が開けてくることと思います。

また、山崎監督は、受賞後のインタビューで次のようなことも述べています。「目標なんて作っていると、それにとらわれて自由が利かなくなってしまうので、とにかく、その時々やりたいことをどんどん突き進んでやっていきたい。」「一生懸命がんばったら、いいこともある。」「お客さんが楽しんでもらえるものを作っていきたい。」と今後の抱負を語っていました。今後の皆さんの生き方の参考にしてください。(後半略)

保護者や地域の皆さま、御支援と御協力をお願いします。1年間、よろしくお願ひいたします。

(文責 河野 靖)